

「意欲的に学び、高めあい、地域から信頼され誇りに思える学校」をめざして



# 布水だより

No. 7

令和4年9月12日  
布水中学校  
校長 松田英樹

## 【学校長より】

### ■読書のすすめ [生徒の皆さんへ]

今年の長く暑い夏もそろそろ終わりが近づき、過ごしやすい季節がやってこようとしています。「読書の秋」と呼ばれるように、秋は勉強に向けた季節です。今回の学校だよりは、読書について皆さんと一緒に考えてみようと思います。

### ◇学力調査結果から

『布水だより No.5』でお知らせしたとおり、春に3年生が受けた「全国学力・学習状況調査」の結果から分かったことを1つ紹介します。

質問紙の「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか」と「読書は好きですか」では、本校の肯定的な回答が県平均を下回っていました。また、全体的な結果は県平均と比べて悪くないのですが、国語の「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えること」は県平均を下回りました。詳しくは書き切れませんが、これら3つに何か関係がありそうです。

### ◇読書の大切さ

3年生は他の勉強もあるでしょうから、読書に多くの時間をかけることは難しいかもしれません。そうだとすると、それが読書離れにつながるのは残念なことです。皆さんには、これからの人生で読書を大切にしてほしいと思います。1年生や2年生も含め、予測困難な時代、複雑で曖昧な時代あいまいを生き抜いていく皆さんには、学び続けることが大切で、学ぶ手段として読書が最適だからです。

昨年度の卒業式で私から卒業生に送ったことばです。「1980年代に、『思考の整理学』というベストセラーを書いた外山滋比古という人がこう言いました。『三度、五度と読んで、新しい発見と感銘があるわが人生の本が3冊もあればりっぱな読書人である』『そういう本をたまに開いて、読んで、ところどころで立ち止まって自分の考えに遊ぶ。時を置いてまた読んで思いを新たにすると。皆さんの人生の書との出会いを期待します。』

### ◇読書の良さ

読書の良さを、考えてみましょう。私が思いついたものを並べてみると、次のようなものが挙げられます。

もっと他にもあるはずです。皆さんも考えてくれるとうれしいです。



- 多くの人生体験から学べる  
(人が直接体験できることには限りがあります。世界中のどこへも連れて行ってくれます。)
- 他者の失敗から学べる  
(安全に、過去へも未来へも行けます。戦国武将と同じ経験をするのは危険すぎます。)
- 自分を客観的に見る力が付く  
(自分と同じ悩みを持つ人がいることに気づくと元気になれるのではないのでしょうか。)
- 自分の成長を感じられる  
(同じ本を何度か読むと、印象が変わってきます。自分の読み方の変化に気づくでしょう。)
- 本を読むこと自体の楽しさを味わうことができる  
(深い感動が生まれ、心が豊かになります。)
- 想像力が付く  
(相手の気持ちになって考え、登場人物の心情を読み取るのが上手になります。)
- 語彙力が付く  
(何度も何度も知らない語句や漢字などに会い、徐々に言葉が身に付いていきます。)
- 知識がつながっていく  
(ネットワークができていくと良いアイデアがひらめきやすくなります。)

## ◇様々な読書

読書には様々なタイプがあります。以下のように、場面や読む本に応じて読み方を変えているのではないのでしょうか。

1つは、読む速さを変えることができます。これは読みの深さ(質)と関わってきます。1冊の本を速いスピードで読む「速読」や1冊の本を深いところまでしっかり読む「熟読・精読」があります。

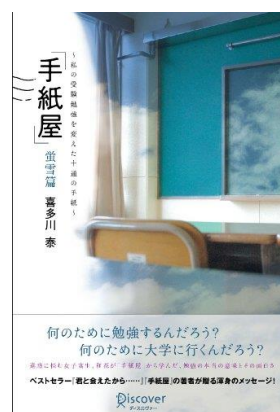
積極的に著者とかがわりながら本と向き合う読書を紹介します。書いてあることが本当にそういえるのかなどと考えながら読むことはとても良いことです。「ここは納得がいかない」、「この意見には賛成/その意見には反対」「例外があるのではないか」など、著者と対話しながら読むといったところでしょうか。

### 《おススメ本》

もう1つは、本を読む量を変えることができます。多くの本を読むことを「多読」といいます。

同じ作者の違う本を読んだり、同じテーマの別の人が書いた本を読んだり、読書の幅を広げるのは良いことです。普段あまり読まない本をぱっと選んで読み、読書の幅を広げることもおすすめします。

読解力を育む、必要な情報を得る、頭を鍛えるための読書は必要です。また一方、心を和ませる、新たな気づきを生む、感性を磨くための読書も必要です。皆さんがいろいろな本の読み方や本の種類を組み合わせながら、良い「読み手」となるよう願っています。



※図書館にあるそうです。

布水中学校のホームページにも学校生活のようすを随時記載していますので、ぜひご覧ください。学校への質問やご意見などがございましたら下記どうぞ。

連絡先 076-248-0039 (担当 教頭 南・主幹 黒川)  
メール [fusuityul@ed.city.nonoichi.ishikawa.jp](mailto:fusuityul@ed.city.nonoichi.ishikawa.jp)